

岡山県感染症週報 2017年 第48週 (11月27日～12月3日)

岡山県は『インフルエンザ注意報(流行シーズン入り)』を発令しました(12月7日発令)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2017年 第48週(11/27～12/3)の感染症発生動向(届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第46週	2類感染症	結核	2名(20代 女 2名)
第47週	5類感染症	後天性免疫不全症候群	1名(60代 男)
		梅毒	2名(30代 男)
第48週	2類感染症	結核	1名(80代 男)
	5類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	1名(90代 男)
		梅毒	2名(30代 男 1名、40代 男 1名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

- インフルエンザは、県全体で115名(定点あたり0.61 → 1.37人)の報告があり、前週より大きく増加しました。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で74名(定点あたり1.37 → 1.37人)の報告があり、前週と同数でした。

【第49週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が10施設でありました。(12月4日～7日)

1. **梅毒**は、第47週に2名、第48週に2名の報告があり、2017年第48週まで(～12/3)の報告数は160名となりました。1999年以降最も多かった2016年の年間報告数(40名)の4倍の報告数となり、増加が継続しています。梅毒の検査は、県内の保健所・支所(無料、匿名、要予約)又は医療機関(有料、要予約)で受けることができます。詳しくは、保健所・支所又は医療機関におたずねください。
2. **インフルエンザ**は、県全体で115名(定点あたり0.61 → 1.37人)の報告があり、前週より大きく増加しました。定点あたり報告数が、インフルエンザ注意報発令基準の1.00人を上まわったことから、12月7日、岡山県は「**インフルエンザ注意報(流行シーズン入り)**」を発令し、広く注意を呼びかけることとしました。地域別では、倉敷市(2.31人)、岡山市(1.91人)、備中地域(1.33人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは「**インフルエンザ週報**」及び岡山県感染症情報センターホームページ『**2017/2018年シーズン インフルエンザ情報「インフルエンザ注意報(流行シーズン入り)」発令中!**』をご覧ください。
3. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で74名(定点あたり1.37 → 1.37人)の報告があり、前週と同数でした。患者数の大きな増加はありませんが、過去10年間の同時期と比較して高いレベルで推移しています。地域別では、岡山市(2.50人)、備北地域(2.00人)、倉敷市(1.73人)の順で多くなっており、真庭地域を除く全ての地域で患者が報告されています。県内の発生状況など、詳しくは「**今週の注目感染症**」をご覧ください。

【お知らせ】

年末年始に海外へ旅行される方に向けた感染症情報が、厚生労働省のホームページに掲載されています。

[年末年始における海外での感染症予防について\(厚生労働省\)](#)
[年末年始に海外へ渡航される皆さまへ!\(厚生労働省検疫所\)](#)

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	▲	★	RSウイルス感染症	▲	★
咽頭結膜熱	➡	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★★
感染性胃腸炎	➤	★★★★	水痘	➤	★
手足口病	▼	★	伝染性紅斑	▼	★
突発性発疹	➤	★★	百日咳	▲	★
ヘルパンギーナ	▼	★	流行性耳下腺炎	▲	★
急性出血性結膜炎	➡		流行性角結膜炎	▲	★
細菌性髄膜炎	➡		無菌性髄膜炎	➡	
マイコプラズマ肺炎	➤	★	クラミジア肺炎	➤	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	▲	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

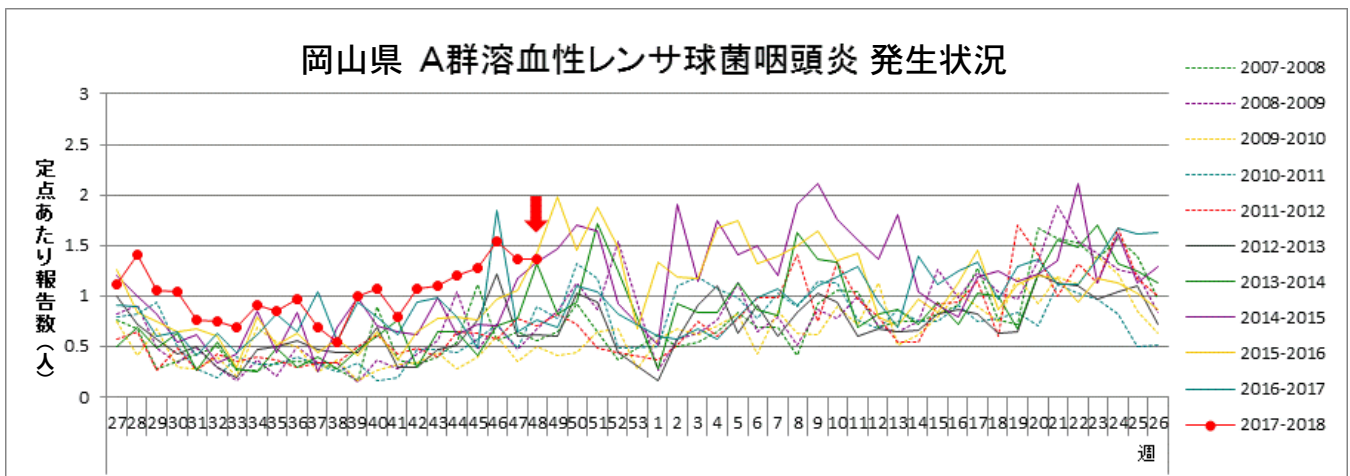
【記号の説明】 前週からの推移： ▲：大幅な増加 ➤：増加 ➡：ほぼ増減なし ▼：大幅な減少 ◀：減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間で比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

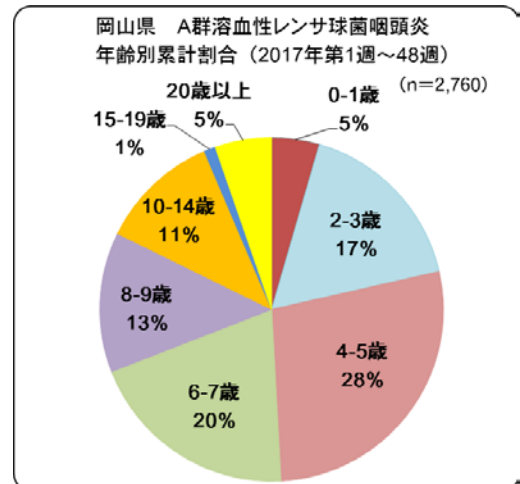
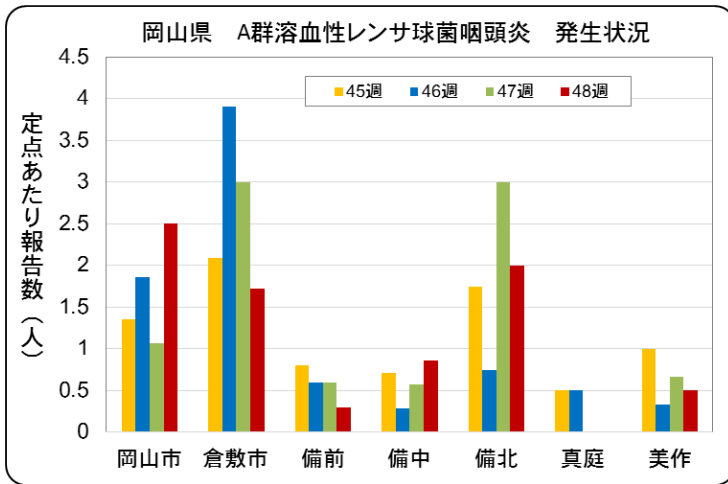
今週の注目感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

【岡山県の発生状況】

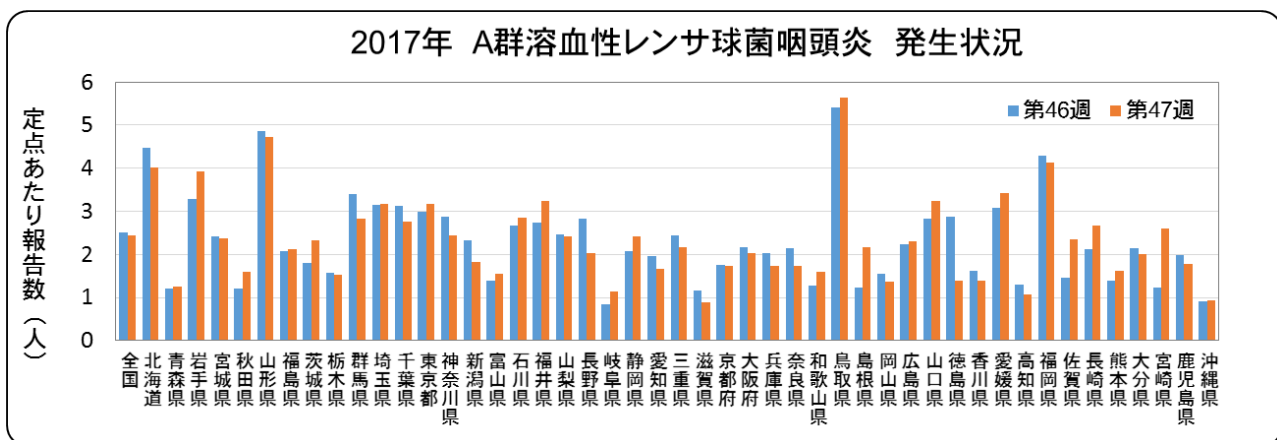
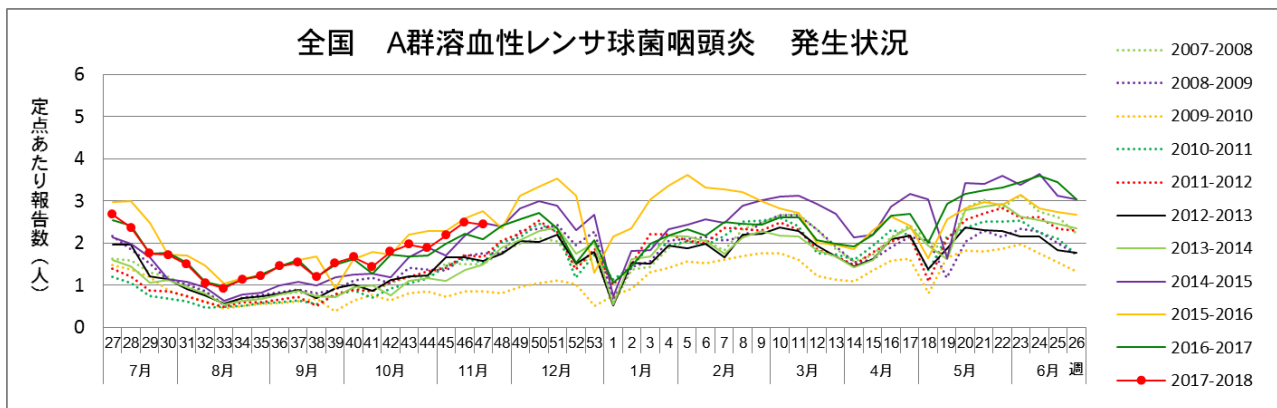


※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年27週～翌年26週を1シーズンとしてグラフを作成しています。



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で74名（定点あたり1.37 → 1.37人）の報告があり、前週と同数でした。患者数の大きな増加はありませんが、過去10年間の同時期と比較して高いレベルで推移しています。地域別では、岡山市（2.50人）、備北地域（2.00人）、倉敷市（1.73人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、真庭地域を除く全ての地域で患者が報告されています。多くの地域で患者が減少しましたが、岡山市（1.07 → 2.50人）では前週より倍増しました。年齢別累計割合では、4-5歳28%、6-7歳20%、2-3歳17%の順に多くなっており、10歳未満の小児が全体の83%を占めています。

【全国の発生状況】



全国の第47週（11/20～11/26）の発生状況は、定点あたり報告数が2.44人であり、前週とほぼ同数でした。過去10年間と比較して患者の発生が多い状態で推移しています。都道府県別では、鳥取県（5.63人）、山形県（4.73人）、福岡県（4.13人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。近隣県でも多くの患者が報告されていますので、今後の県内の発生状況に注意するとともに、うがいや手洗いを励行するなど感染予防に努めましょう。

【A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは】

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、就学前から学童期の小児に多い感染症です。A 群レンサ球菌による上気道感染症で、感染経路はヒトからヒトへの飛沫感染や接触感染が主ですが、食品を介する経口感染もあるといわれています。そのため、家庭での兄弟間や、学校・保育施設などの小児の集団生活施設内での感染も多いとされています。季節的には、冬季及び春から初夏にかけて、2つの報告数のピークが確認されます。

【症状】

潜伏期間は 2～5 日で、突然の発熱と体のだるさ、のどの痛みで発症し、しばしばおう吐を伴います。また、口腔内に小点状出血あるいは莓舌（イチゴのように赤くブツブツしている舌）がみられることがあります。通常、発熱は 3～5 日以内に下がり、主症状は 1 週間以内に消失する予後が良好な疾患ですが、合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱、急性糸球体腎炎などの非化膿性疾患を生じることもあります。また、菌が産生する毒素に免疫がない場合は猩紅熱に発展する場合があります。猩紅熱では、発熱開始後 12～24 時間すると点状紅斑様、日焼け様の皮しんが出現し、針頭大の皮しんにより、皮膚が紙やすり様の手触りになることがあります。

【治療・予防】

治療には、ペニシリン系抗菌薬が第一選択薬とされていますが、ペニシリンアレルギーがある場合は、マクロライド系やセフェム系の抗菌薬が投与されます。いずれの薬剤も少なくとも 10 日間は、確実に投与することが必要です。

予防としては、患者との濃厚接触を避けることが最も重要であり、うがい、手洗いの実施や、咳エチケットなどの一般的な予防法が効果的とされています。

[A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは（国立感染症研究所）](#)

インフルエンザ週報 2017年 第48週 (11月27日～12月3日)

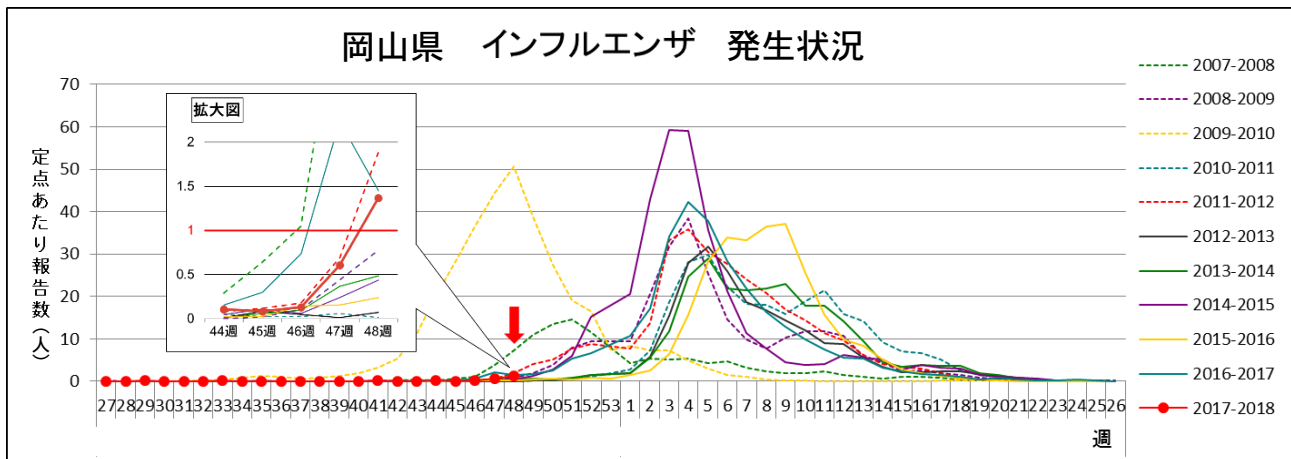
岡山県は『インフルエンザ注意報（流行シーズン入り）』を発令しました（12月7日発令）

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で115名（定点あたり1.37人）の報告がありました。（84 定点医療機関報告）
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が7施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。

【第49週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が10施設でありました。（12月4日～7日）



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で115名（定点あたり0.61 → 1.37人）の報告があり、前週より大きく増加しました。定点あたり報告数が、インフルエンザ注意報発令基準の1.00人を上まわったことから、12月7日、岡山県は「**インフルエンザ注意報（流行シーズン入り）**」を発令し、広く注意を呼びかけることとしました。地域別では、倉敷市（2.31人）、岡山市（1.91人）、備中地域（1.33人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。真庭地域を除く全ての地域で患者の発生がありますが、特に倉敷市、備前地域、備中地域及び備北地域では、前週より大きく増加しています。第49週（12/4～）速報でも、学校等の臨時休業が10施設で報告されており、今後の患者の増加が懸念されます。県内の発生状況に注意するとともに、『外出後や食事前の手洗いを徹底する』、『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する』、『十分な睡眠を取る』など、感染予防に努めましょう。また、予防接種を予定されている方は、早めに済ませましょう。

[インフルエンザ Q&A（厚生労働省）](#)

◆◆ インフルエンザの予防接種は、お早めに！ ◆◆

インフルエンザのワクチンによる効果が現れるまで、2週間程度かかります。

本格的な流行がはじまる 12月中旬までに、予防接種を済ませることが望ましいです。

定期予防接種の対象者は積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

- ・ 予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- ・ 年により、流行するウイルスの型が変わるため、毎年接種する必要があります。
- ・ 13歳以上の方は、1回接種を原則としています。

定期予防接種対象者

- * 65歳以上の方
- * 60～64歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障害があり、日常生活が非常に困難な方

◎ワクチンの在庫および予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

◎定期予防接種については、接種できる期間が市町村によって異なりますので、お住まいの市町村担当課にお問い合わせください。

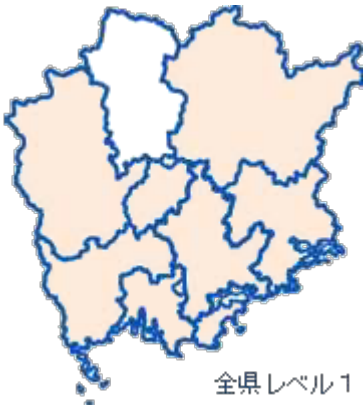
1. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	115	↑	備 中	患者数	16	↑
	定点あたり	1.37			定点あたり	1.33	
岡山市	患者数	42	↗	備 北	患者数	6	↑
	定点あたり	1.91			定点あたり	1.00	
倉敷市	患者数	37	↑	真 庭	患者数	0	→
	定点あたり	2.31			定点あたり	0.00	
備 前	患者数	4	↑	美 作	患者数	10	↘
	定点あたり	0.27			定点あたり	1.00	

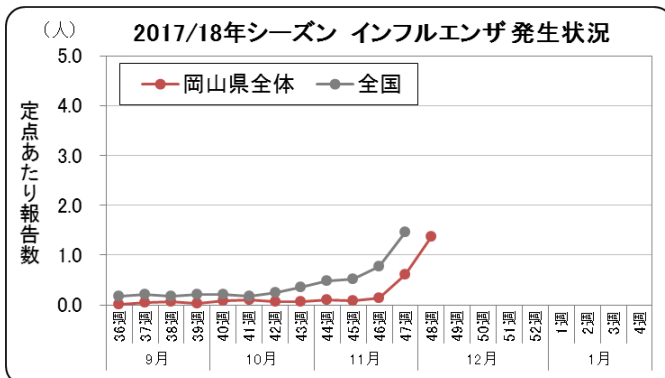
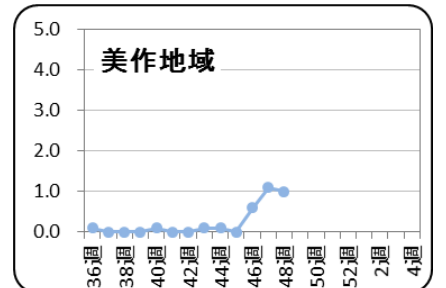
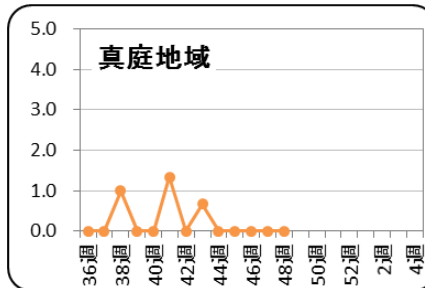
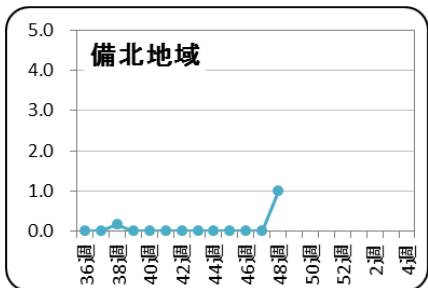
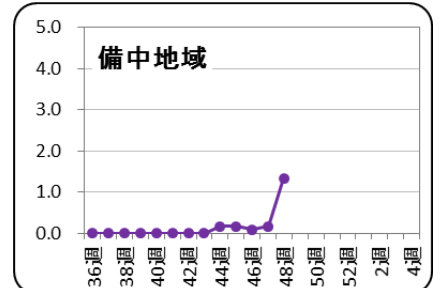
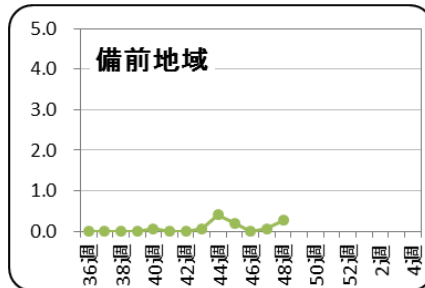
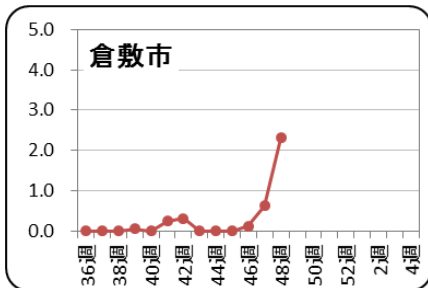
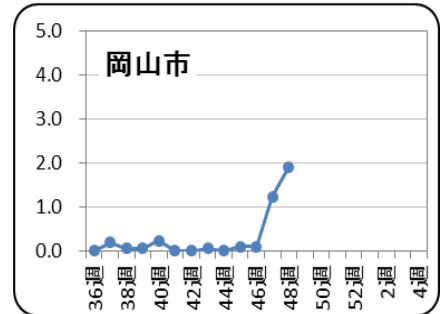
【記号の説明】 前週からの推移
 ↑：大幅な増加 ↗：増加 →：ほぼ増減なし ↓：大幅な減少 ↘：減少
 大幅：前週比 100%以上の増減 増加・減少：前週比 10～100%未満の増減

インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2	
開始基準値	終息基準値	基準値	
30	10	10 以上 30 未満	
レベル1		報告なし	
基準値		基準値	
0 < 10 未満		0	

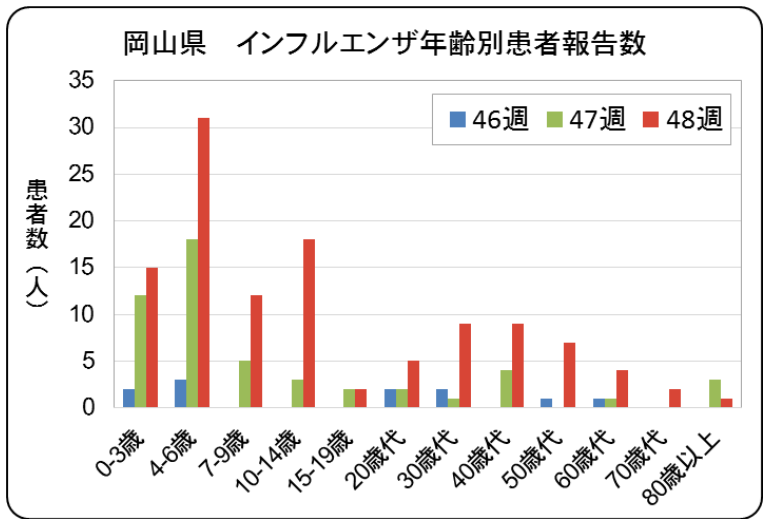
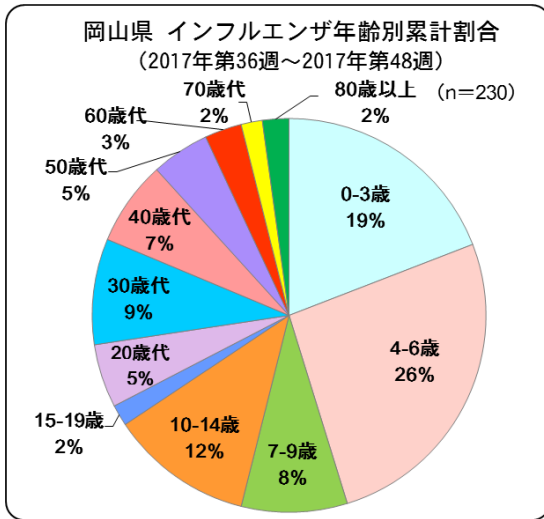


全国集計第47週（11/20～11/26）速報値によると、全国の定点あたり報告数は1.47人となり、流行開始の目安としている1.00人を上まわりました。都道府県別では、沖縄県（4.88人）、長崎県（4.47人）、愛媛県（3.39人）の順で定点あたり報告数が増えており、全都道府県で前週の報告数よりも増加がみられました。

[インフルエンザの発生状況について\(厚生労働省\)](#)

2. 年齢別発生状況

今シーズン（2017/9/4～）の年齢別累計割合は、4-6歳 26%、0-3歳 19%、10-14歳 12%の順で高くなっており、6歳以下の乳幼児が全体の45%を占めています。

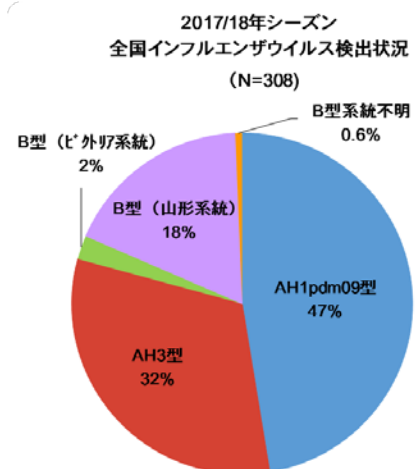
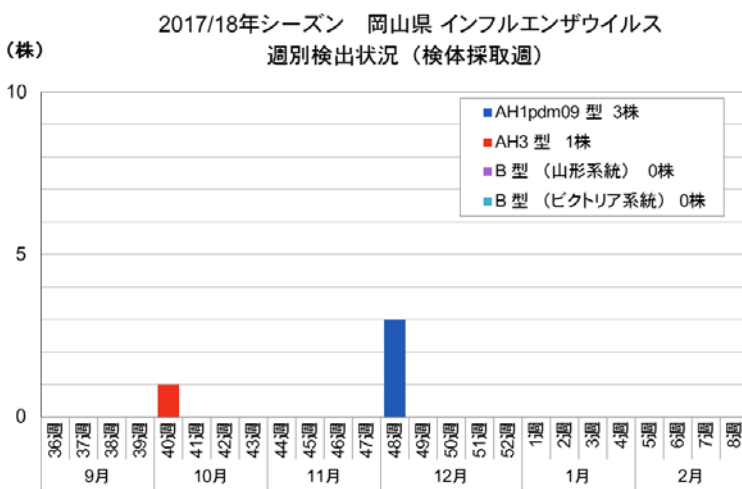


3. インフルエンザウイルス検出状況

第48週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、3株（詳細は下表参照）でした。今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、4株で、その内訳は、AH1pdm09型 3株、AH3型 1株となっています。

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型 47%、AH3型 32%、B型 20.6%〔山形系統 18%・ビクトリア系統 2%・系統不明 0.6%〕が検出されています（12月1日現在）。

ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスAH1pdm09	2017年第48週(11/27～12/3)	2017/11/28	岡山市	小学生	男	集団発生事例
インフルエンザウイルスAH1pdm09	2017年第48週(11/27～12/3)	2017/11/28	岡山市	小学生	女	集団発生事例
インフルエンザウイルスAH1pdm09	2017年第48週(11/27～12/3)	2017/11/28	岡山市	小学生	男	集団発生事例

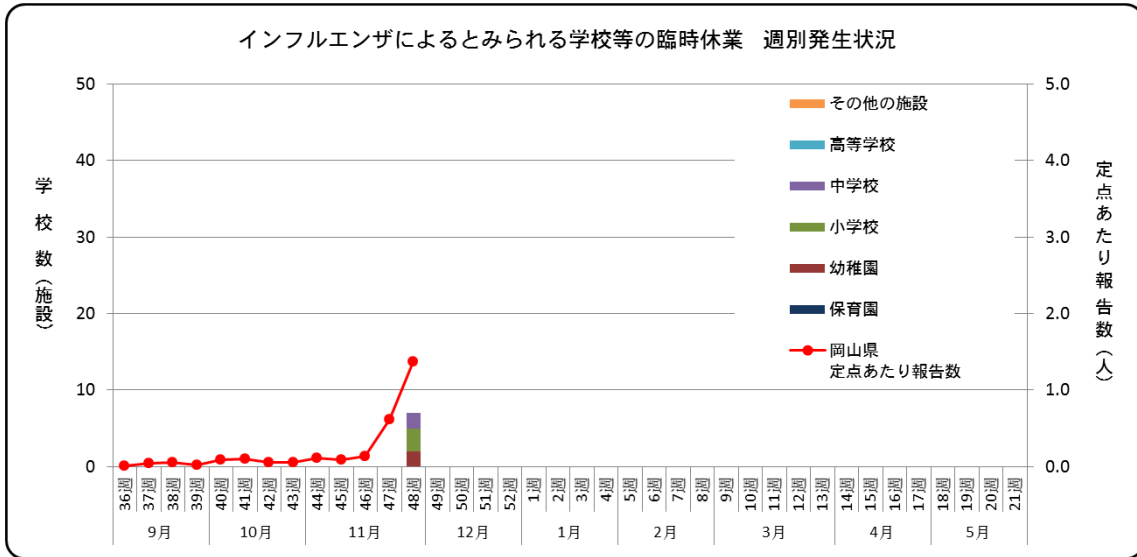


4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が7施設でありました。

【第48週 臨時休業施設数】

▽岡山市 4 ▽倉敷市 3



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	96	96	71	71	7	7	—	—	—	—	7	7	H29.11.27
岡山市	71	71	52	52	4	4	—	—	—	—	4	4	H29.11.27
倉敷市	25	25	19	19	3	3	—	—	—	—	3	3	H29.11.27
備前地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備中地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備北地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
真庭地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
美作地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

2) 臨時休業施設数の内訳

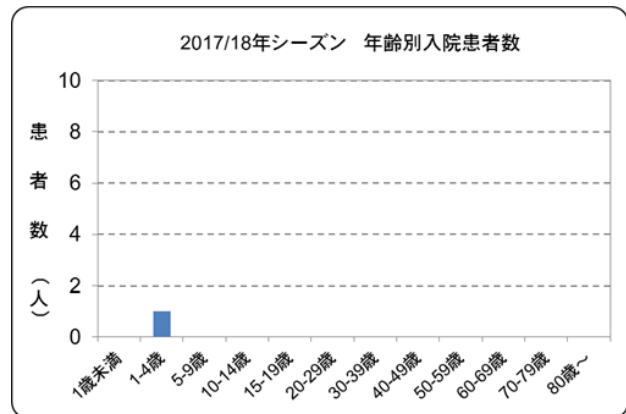
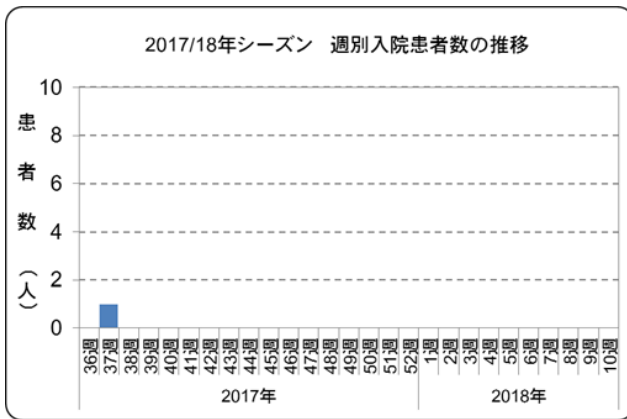
第48週：7施設

累計：7施設

施設数	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	2	2	3	3	2	2	—	—	—	—

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。



【2017年9月4日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
入院患者数		1											1
ICU入室 *		1											1
人工呼吸器の利用 *													
頭部 CT 検査(予定含) *		1											1
頭部 MRI 検査(予定含) *		1											1
脳波検査 (予定含) *		1											1
いずれにも該当せず													

* 重複あり

保健所別報告患者数 2017年 48週(定点把握)

(2017/11/27~2017/12/03)

2017年12月7日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	115	1.37	42	1.91	37	2.31	4	0.27	16	1.33	6	1.00	-	-	10	1.00
RSウイルス感染症	33	0.61	12	0.86	11	1.00	2	0.20	3	0.43	-	-	-	-	5	0.83
咽頭結膜熱	12	0.22	5	0.36	4	0.36	-	-	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	74	1.37	35	2.50	19	1.73	3	0.30	6	0.86	8	2.00	-	-	3	0.50
感染性胃腸炎	423	7.83	106	7.57	98	8.91	86	8.60	23	3.29	51	12.75	6	3.00	53	8.83
水痘	18	0.33	5	0.36	7	0.64	3	0.30	1	0.14	1	0.25	1	0.50	-	-
手足口病	30	0.56	14	1.00	7	0.64	4	0.40	1	0.14	-	-	2	1.00	2	0.33
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
突発性発疹	21	0.39	15	1.07	4	0.36	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	6	0.11	1	0.07	2	0.18	-	-	1	0.14	-	-	1	0.50	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	0.58	5	1.00	-	-	-	-	2	2.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	3	0.60	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2017年 48週(発生レベル設定疾患)

(2017/11/27~2017/12/03)

2017年12月7日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	115	1.37	42	1.91	37	2.31	4	0.27	16	1.33	6	1.00	-	-	10	1.00
咽頭結膜熱	12	0.22	5	0.36	4	0.36	-	-	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	74	1.37	35	2.50	19	1.73	3	0.30	6	0.86	8	2.00	-	-	3	0.50
感染性胃腸炎	423	7.83	106	7.57	98	8.91	86	8.60	23	3.29	51	12.75	6	3.00	53	8.83
水痘	18	0.33	5	0.36	7	0.64	3	0.30	1	0.14	1	0.25	1	0.50	-	-
手足口病	30	0.56	14	1.00	7	0.64	4	0.40	1	0.14	-	-	2	1.00	2	0.33
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	6	0.11	1	0.07	2	0.18	-	-	1	0.14	-	-	1	0.50	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	0.58	5	1.00	-	-	-	-	2	2.00	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2017年 第48週 2017/11/27~2017/12/03)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~	
インフルエンザ	115	-	2	3	3	7	11	10	10	9	2	1	18	2	5	9	9	7	4	2	1

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~	
RSウイルス感染症	33	18	5	3	5	1	-	1	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	12	-	2	2	2	1	1	1	-	-	-	3	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	74	-	1	2	2	5	11	10	6	8	6	7	9	3	4
感染性胃腸炎	423	7	29	87	45	46	30	29	20	19	11	10	27	6	57
水痘	18	-	-	1	-	2	2	2	4	2	4	1	-	-	
手足口病	30	-	3	9	4	6	2	-	3	-	1	1	1	-	
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発疹	21	-	9	10	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
百日咳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
ヘルパンギーナ	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎	6	-	-	-	-	-	1	-	3	-	1	-	1	-	

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	2	1	1	-

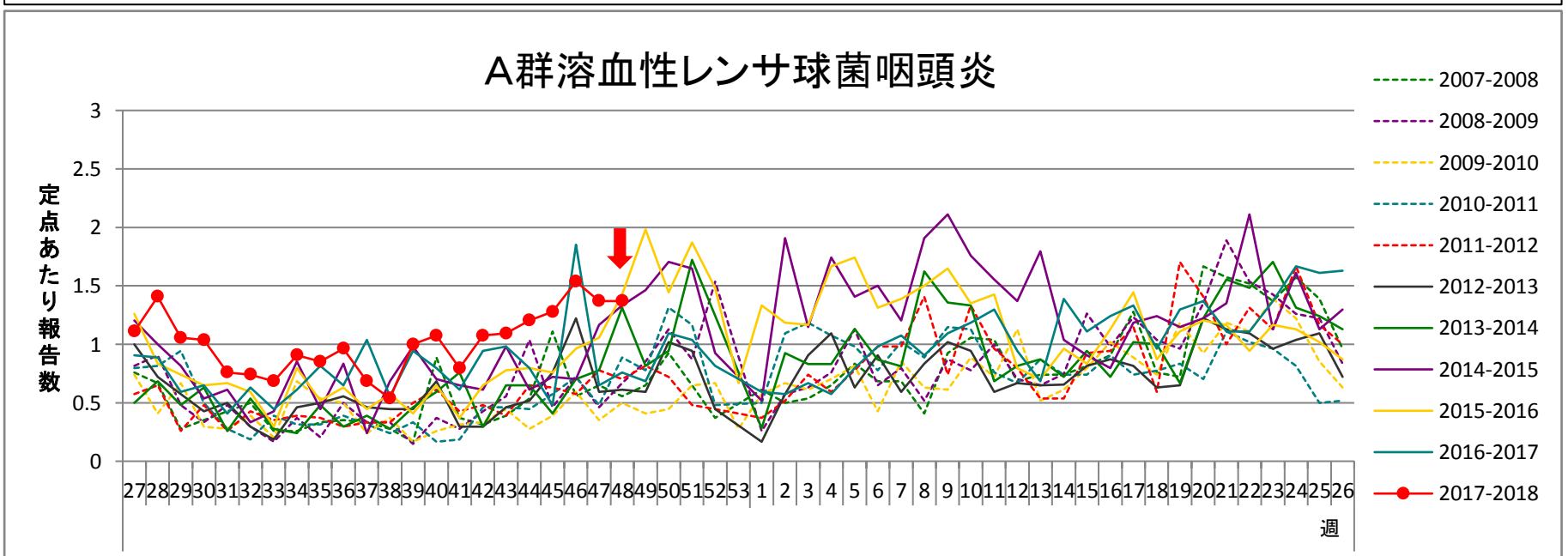
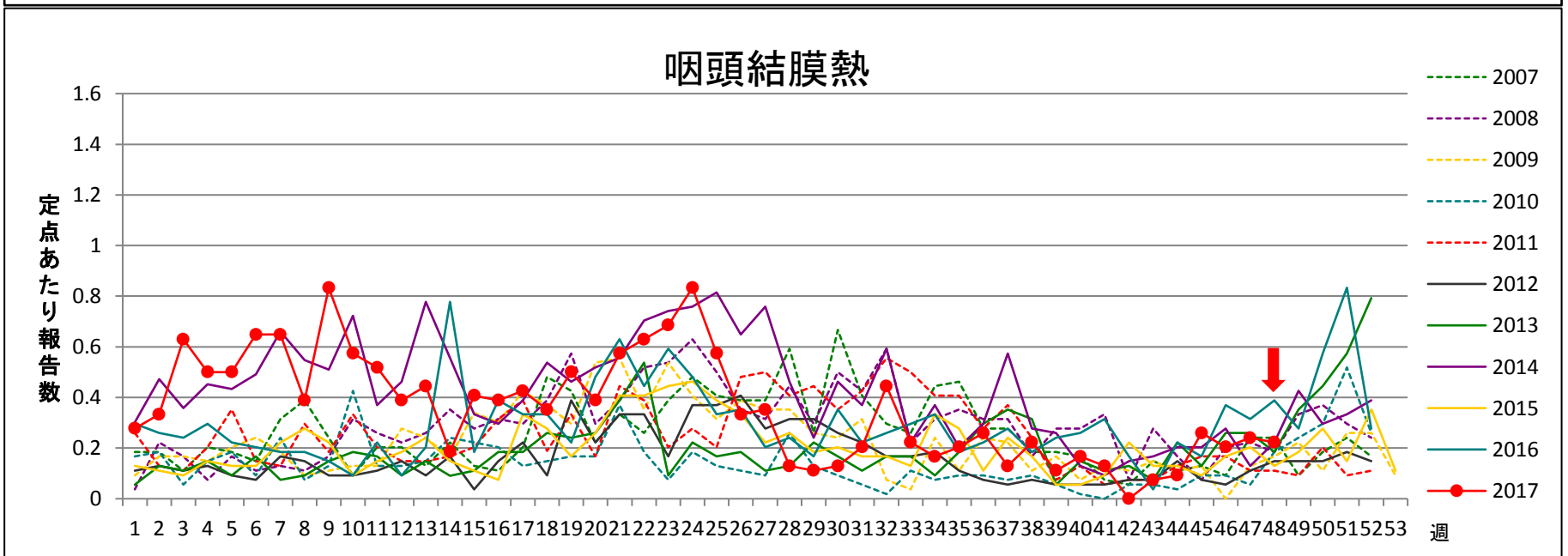
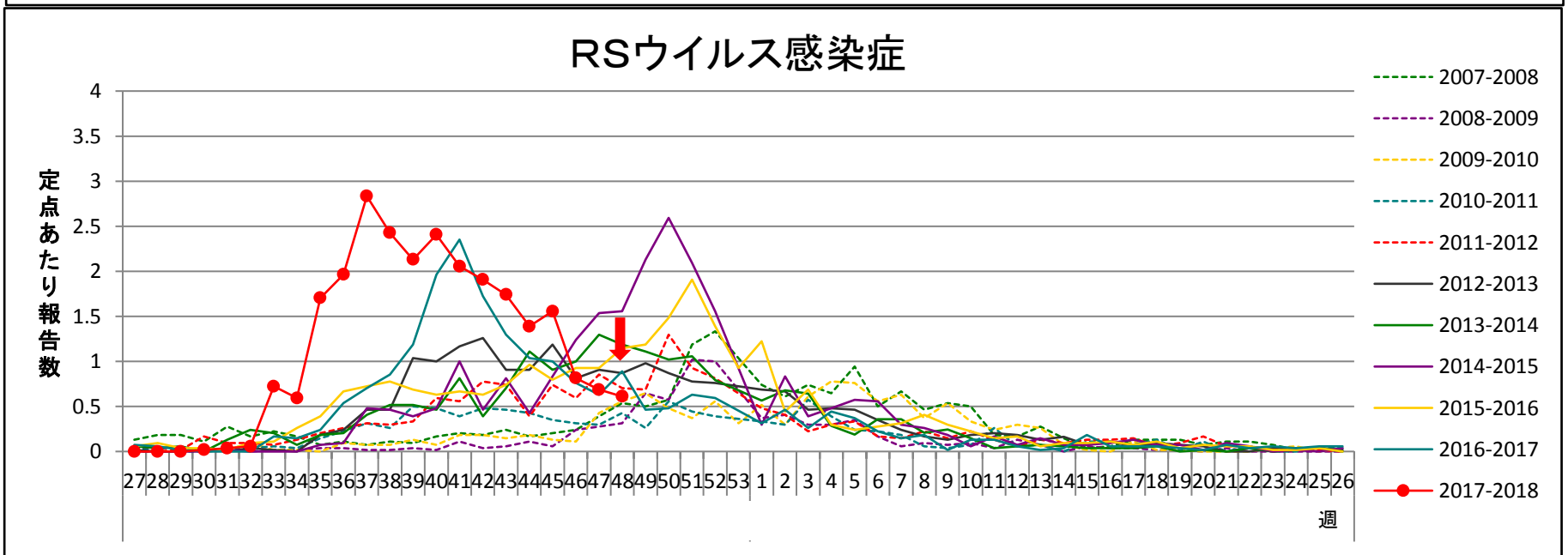
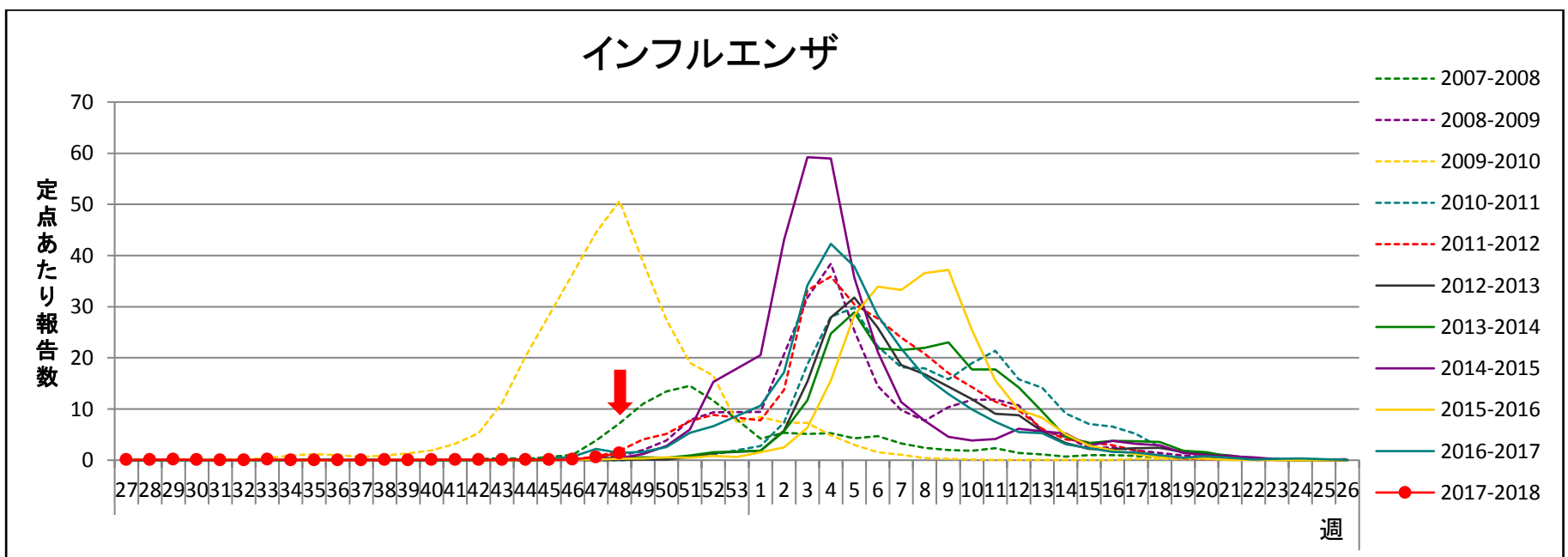
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	3	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

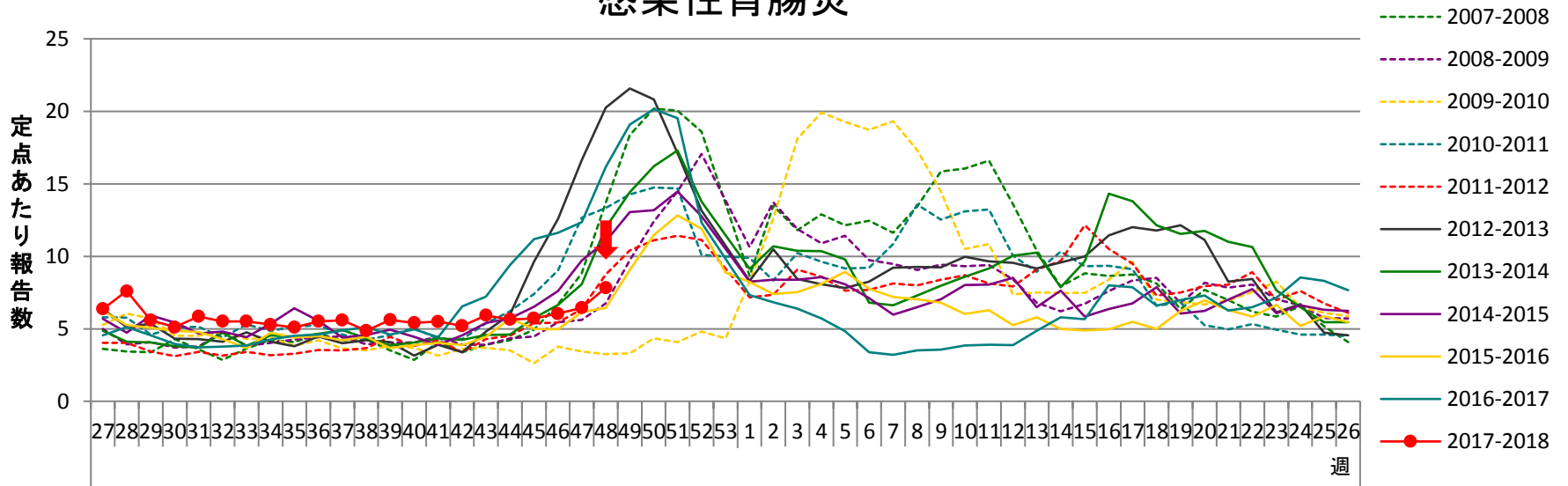
全数把握 感染症患者発生状況

2017年 48週

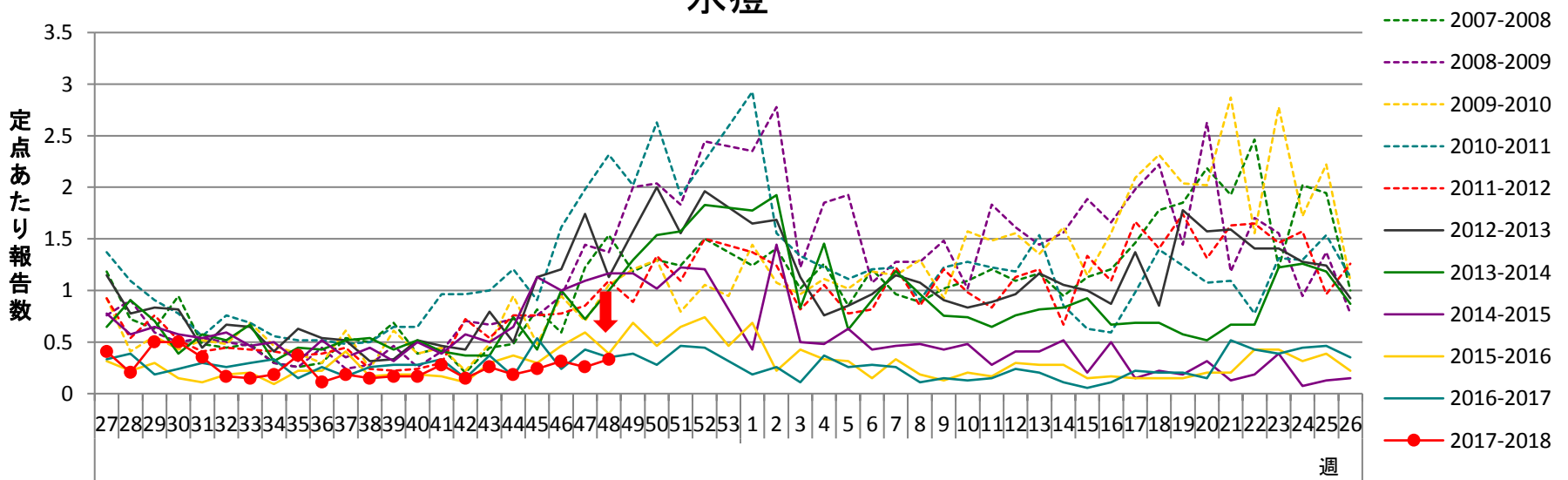
分類	疾病名	2017			疾病名	2016			疾病名	2017			2016		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年			
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	1	330	311	ジフテリア	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
三類	コレラ	-	2	-	細菌性赤痢	-	3	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	67	65	-	-	-
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-	-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	4	3	-	-	-
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	1	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	1	2	-	-	-
	デング熱	-	2	1	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	1	日本紅斑熱	-	7	5	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	29	26	-	-	-
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	19	18	ウイルス性肝炎	-	8	4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	14	28	-	-	-
	急性脳炎	-	4	11	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	3	3	-	-	-
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	7	7	後天性免疫不全症候群	-	18	12	ジアルジア症	-	-	1	-	-	-
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	7	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	1	34	32	-	-	-
	水痘(入院例に限る。)	-	6	3	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	2	160	40	-	-	-
	播種性クリプトコックス症	-	1	2	破傷風	-	-	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	6	1	風しん	-	-	-	麻しん	-	-	-	-	-	-
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-



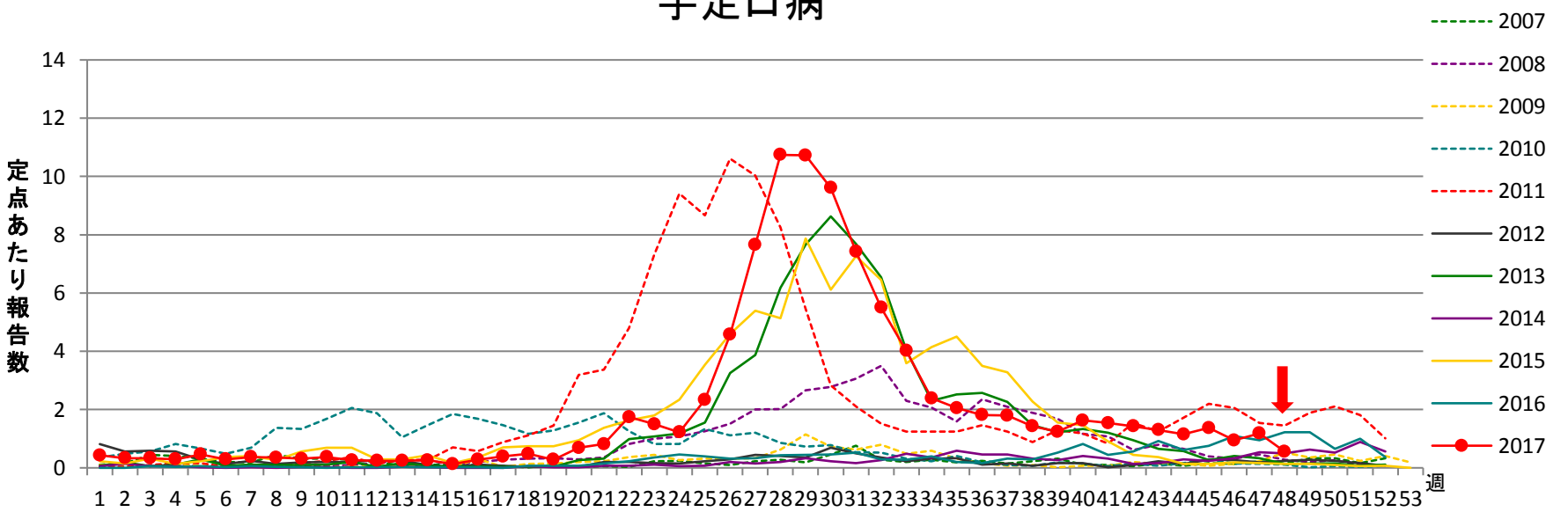
感染性胃腸炎



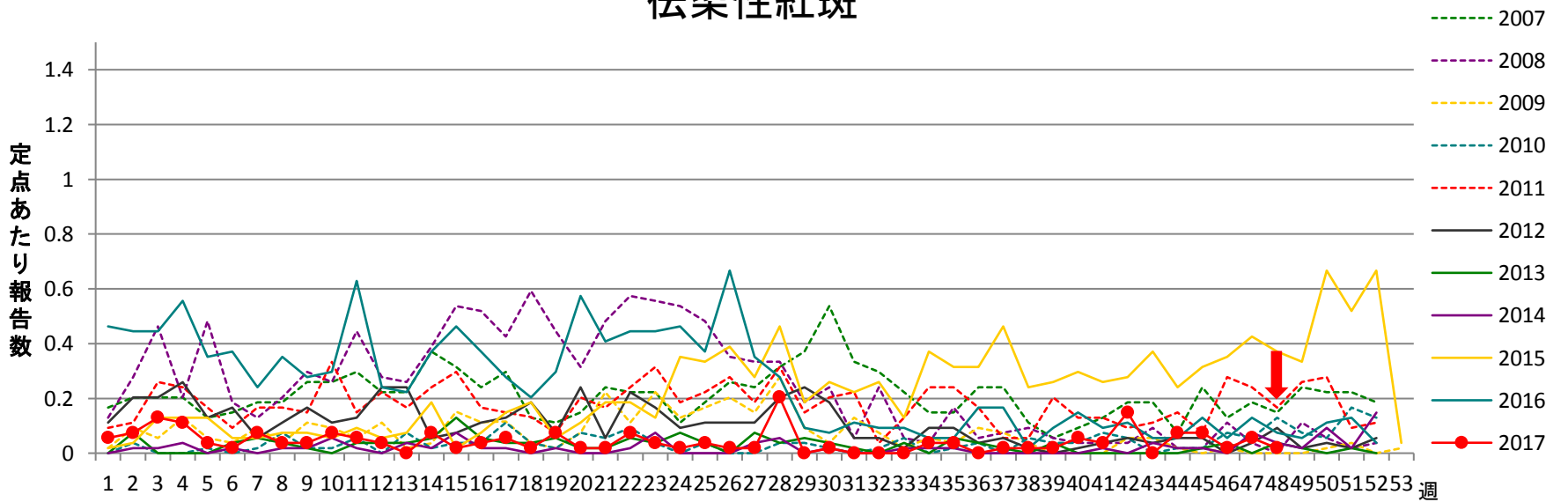
水痘



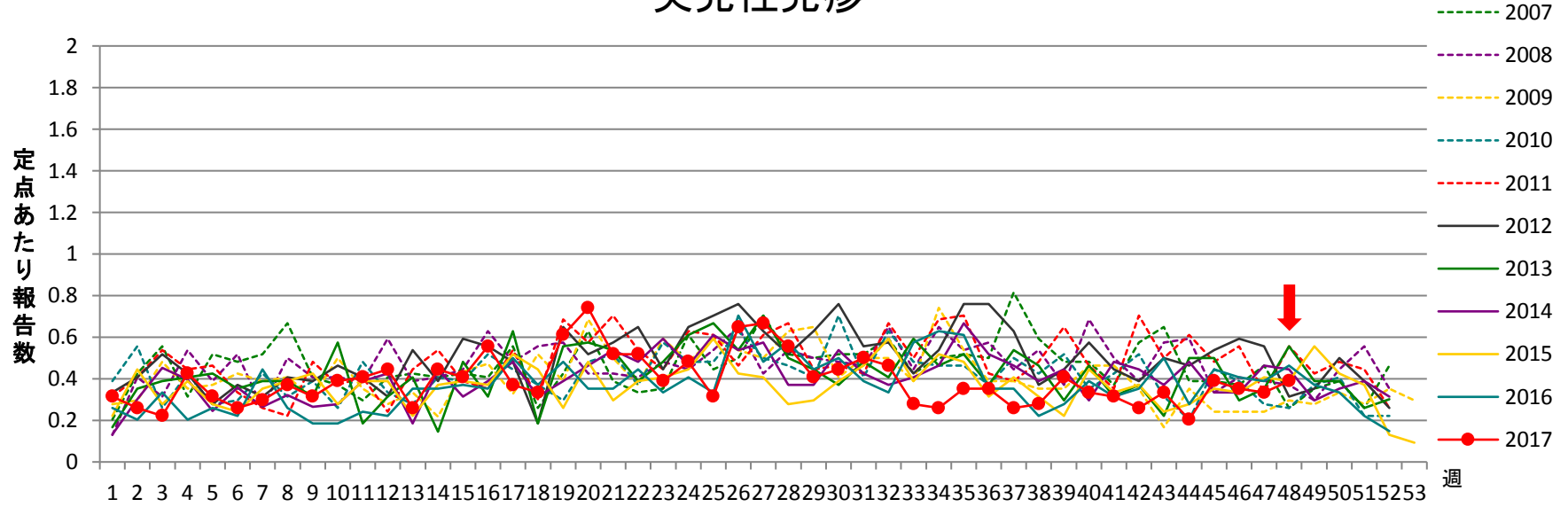
手足口病



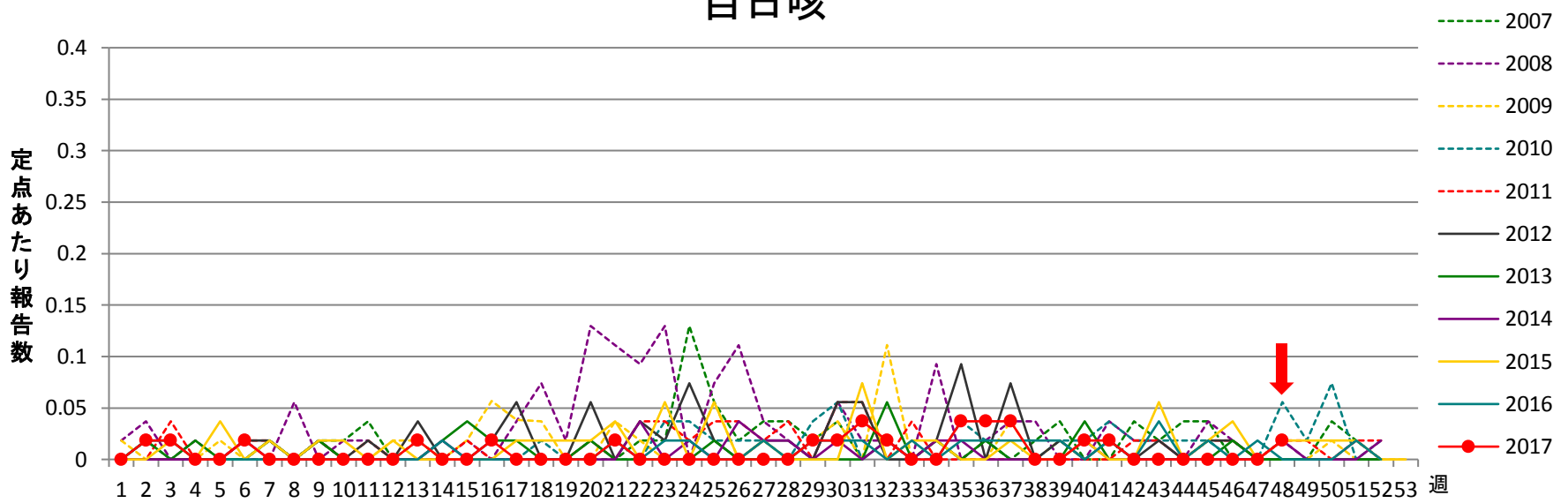
伝染性紅斑



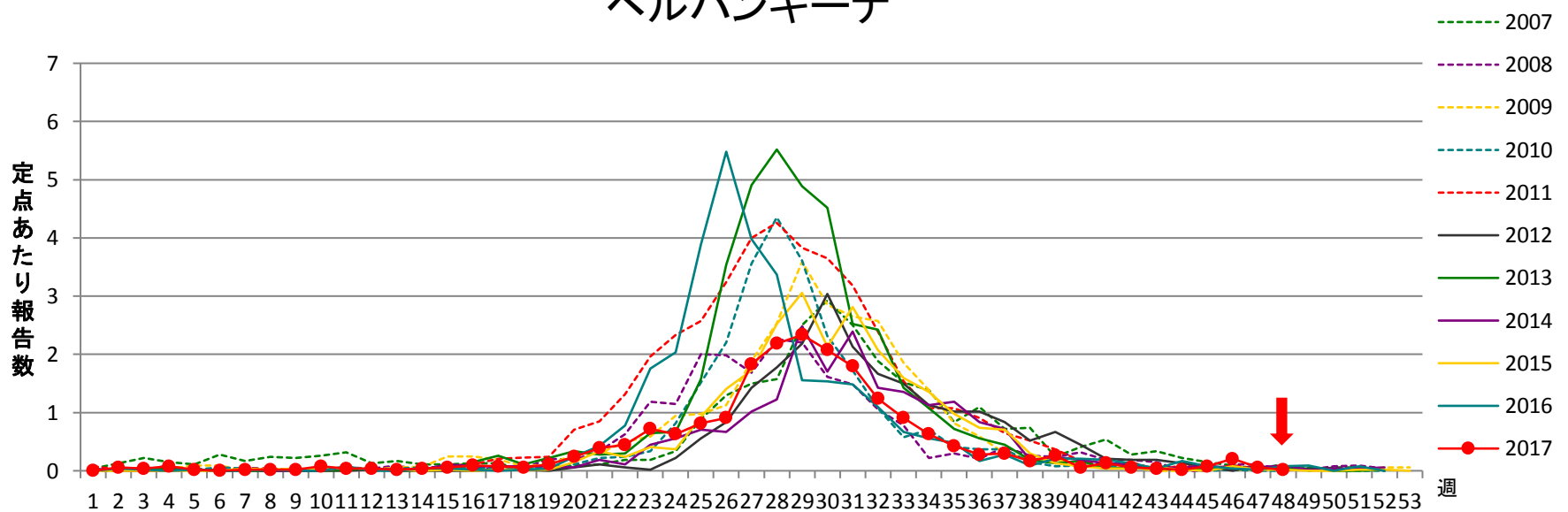
突発性発疹



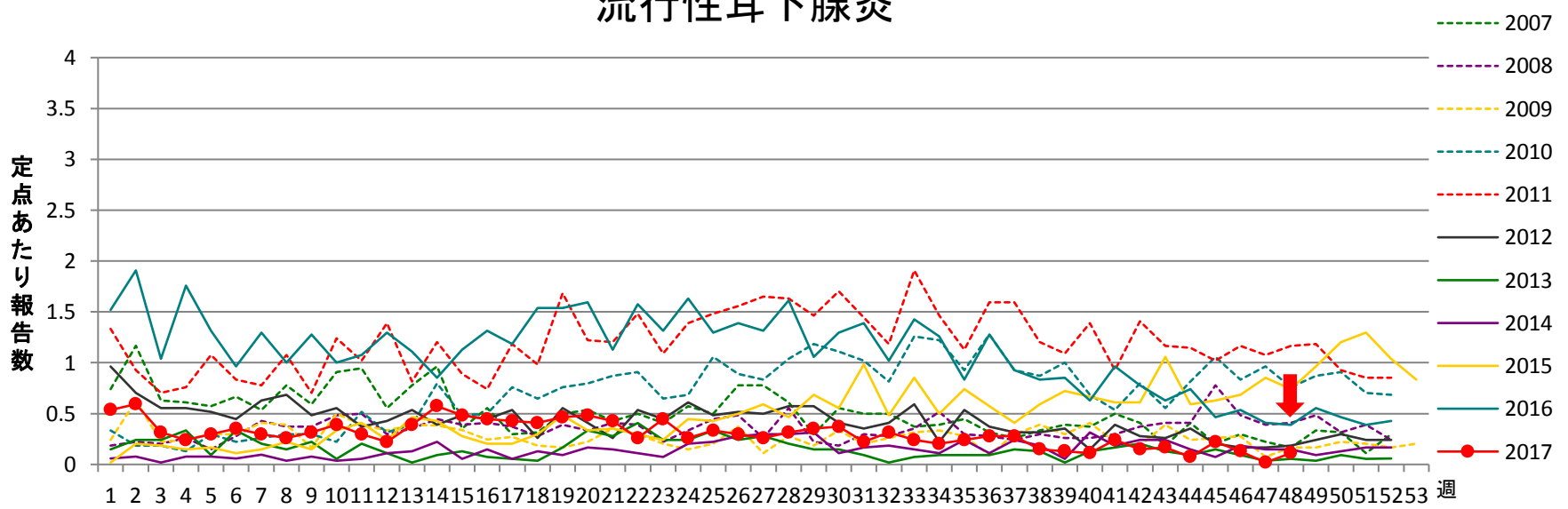
百日咳



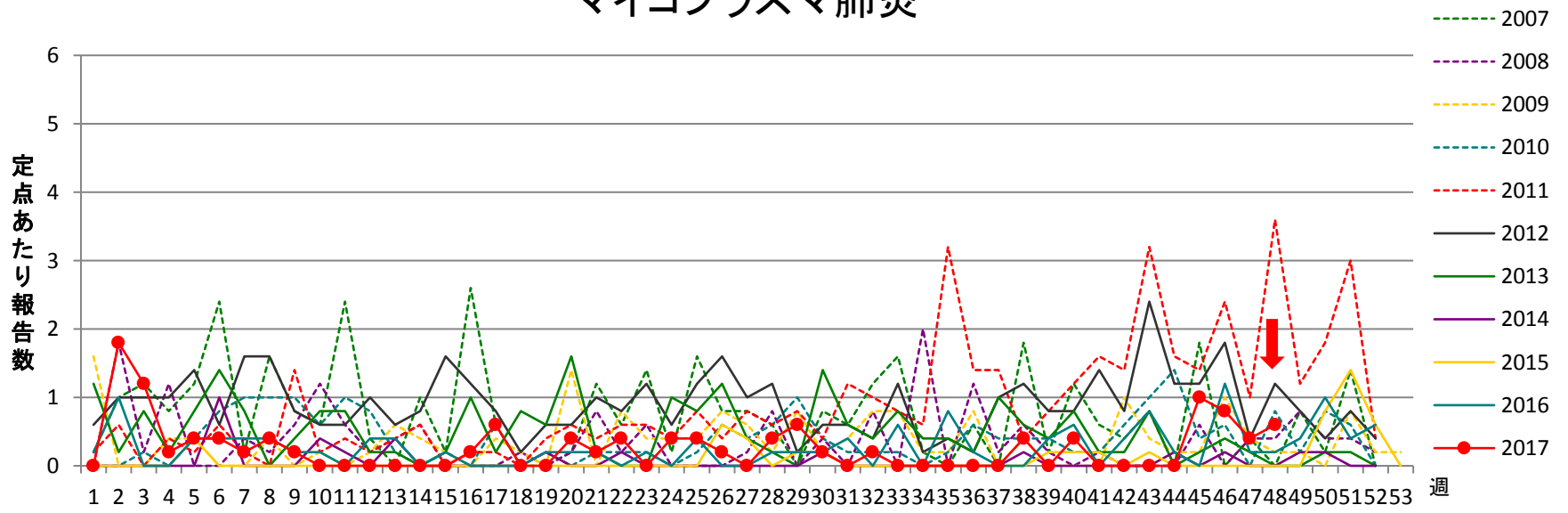
ヘルパンギーナ



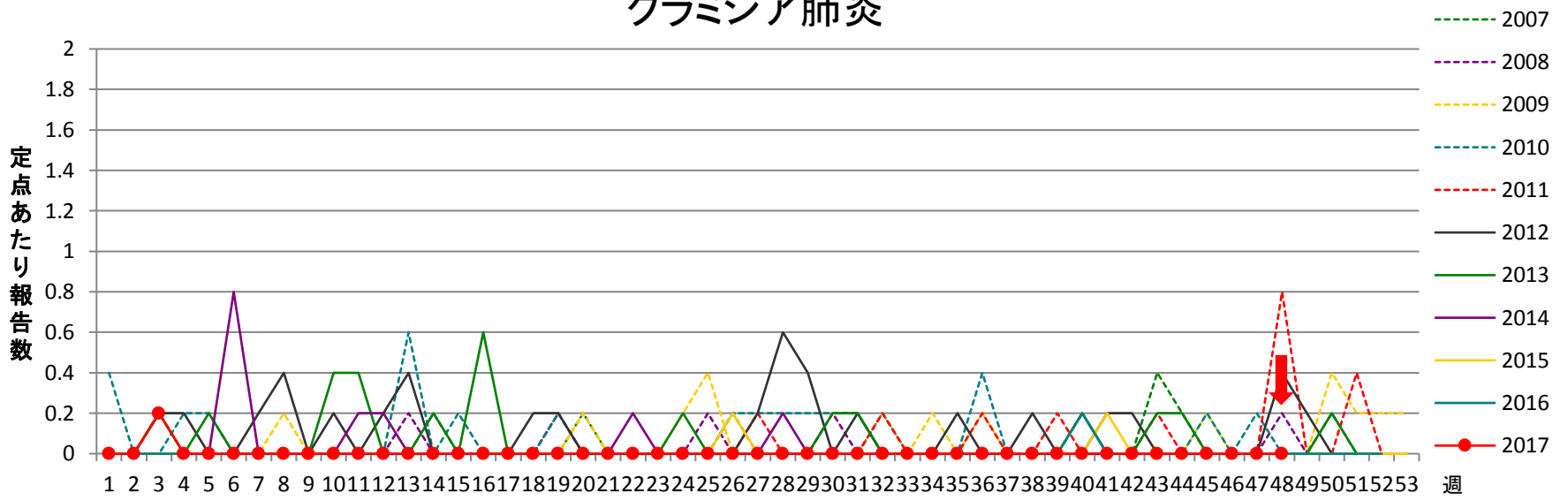
流行性耳下腺炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

